

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2026, No.26

目次			
<u>巻頭言</u>		<u>各委員会からの報告</u>	
JACET 関東支部長 鈴木彩子 -1-	・支部講演会委員会	
<u>第1・2回合同支部総会報告</u>		支部講演会委員長 青木理香 -7-
支部事務局幹事 佐竹由帆 -2-	・支部大会運営委員会	
<u>JACET 関東支部講演会報告</u>		支部大会運営委員長 山口高領 -7-
支部講演会委員長 青木理香 -5-	・支部紀要編集委員会	
<u>JACET 関東支部企画報告</u>		支部紀要編集委員長 鈴木健太郎	... -9-
JACET 関東支部長 鈴木彩子 -7-	<u>事務局だより</u>	
		支部事務局幹事 佐竹由帆 -9-

JACET 関東支部ニューズレター第 26 号（WEB 版）刊行に寄せて

支部長 鈴木彩子（玉川大学）

2025 年 6 月の総会にて承認をいただいた支部長としての初年度を終えようとしています。手探りでのスタートでしたが、前支部長の山口高領先生に支えられ、なんとか滞りなく 2025 年度を締めくくることができそうです。

今年度の関東支部の主な活動は、講演会（6/21, 10/4, 12/13, および 11/8*支部企画として実施）と支部総会（11/8）の実施、そして 3 月 31 日の『JACET-Kanto Journal Vol.13』の刊行です。例年 7 月に開催している支部大会については、8 月に早稲田大学で国際大会が開催されたため、支部の力をそちらに集約すべく開催を見送りました。そのため支部独自の活動規模は例年より小さくなりましたが、その分、国際大会の成功に尽力できたと考えております。運営をお手伝いいただいた研究企画委員の先生方、ならびにご参加いただいた

会員の皆さまに、ここで改めて感謝申し上げます。さて、来年度は支部大会を例年通り 7 月に開催する予定です。会員の皆さまの研究成果の発信と交流の場になるよう、現在工夫を凝らしながら準備を進めております。講演会なども引き続き実施してまいりますので、ぜひ多くの皆さまに参加いただければ幸いです。

この 1 年、支部長を務める中で、私自身にも変化がありました。それは、自分自身の活動だけでなく、会員の皆さまの「研究者としての成長」について考える機会が増えたことです。支部長就任と同時に JACET 本部の理事として全体の運営にも関わるようになり、この組織がいかに多くの先生方の時間と献身的な労力で成り立っているかを学びました。また、運営に関わる先生方ご自身の研究にも非常に真摯に取り組まれている姿

を拝見し、一会員として用意された活動に参加しているだけでは見えなかった景色を知ることができました。先生方が運営に奔走する根底には「学び続けたい」という研究者としての純粋な欲求があるからだ、改めて気づかされました。この実感は、関東支部としてどのような活動が先生方の成長に寄与できるのかを問い直すきっかけとなっています。1年目はそれを具体的な形にするまでには至りませんでした。今後は皆さまのご意見をよりよく聞く体制を整え、より一層「共に学び、成長できる」活動を計画できるように努めてまいります。

第1・2回合同支部総会報告

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

2025年11月8日（土）にオンラインで、2025年度第1・2回合同支部総会が開催されました。支部総会では2024年度事業報告・会計報告、2025年度事業計画、2026年度支部事業計画・予算、2026年度人事についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。会計報告及び予算案については省略致します。

■2024年度事業報告■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

（1）支部大会の開催

名称：2024年度支部大会

日程：2024年7月6日（土）

場所：青山学院大学

大会テーマ：English Language Teaching in Higher Education in the Era of AI

研究発表5件（内キャンセル1件）、実践報告1件、基調講演1件、招待講演1件、SIGシンポジウム1件、ライトニングプレゼンテーション11件

参加申込み登録者数：約100名

（2）講演会等の開催

第1回

日時：2024年6月22日（土）16:00-17:20

講師：栗原文子先生（中央大学商学部教授）、清田洋一先生（明星大学教育学部教授）、中山夏恵先生（文教大学教育学部教授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：異文化間&グローバルシティズンシップを育む英語教育—イタリア訪問調査から

第2回

日時：2024年10月5日（土）16:00-17:20

講師：鈴木彩子先生（玉川大学）、Alessia Cogo先生（Editor-in-Chief of ELT Journal）

場所：オンライン（Zoom）

題目：異文化間シティズンシップのためのELFコミュニケーションの意識向上：日本とイギリスの事例研究（Raising Awareness of ELF Communication for Intercultural Citizenship: Case Studies from Japan and the UK）

第3回

日時：12月14日（土）中止

（3）JACET関東支部企画の開催

日時：2024年11月16日（土）15:30-17:00

講師：Christiane Lütge先生

（Ludwig-Maximilians-Universität München）

場所：中央大学茗荷谷キャンパス

題目：Digital Global Citizenship and AI Literacy

—Challenges and Perspectives for

English Language Education—（デジタル・グローバル・シティズンシップとAIリテラシー—英語教育の課題と展望—）

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第12号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2025年3月31日

発行：XMLデータ ※J-STAGE および関東支部ホームページに掲載

(2) 『JACET 関東支部ニューズレター』

日程：2024年9月30日（第23号）、2025年3月31日（第24号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2024年度 第1回、第2回関東支部総会 第1回

日程：2024年7月6日（土）

場所：オンライン

目的：2023年度の支部の事業報告、会計報告及び2024年度の支部の事業計画

第2回

日程：2024年11月16日（土）（関東支部企画と同日に実施）

場所：オンライン

目的：2024年度の支部の事業計画・予算案および人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2024年4月13日、5月11日、6月8日、9月14日、10月12日、11月16日、12月14日、2025年1月11日、3月8日

場所：オンライン

目的：関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、審議

■2025年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

2025年度は全国大会（8月27～29日）が早稲田大学で開催のため、支部大会は非開催

(2) 講演会等の開催

第1回

日程：2025年6月21日（土）

講師：渡辺敦子先生（文教大学）

場所：オンライン（Zoom）

題目：リフレクションとは？：その変化と発展

第2回

日程：2025年10月4日（土）

講師：藤田恵里子先生（日本大学）

場所：オンライン（Zoom）

題目：“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—

第3回

日程：2025年12月13日（土）

講師：山内豊先生（創価大学）

場所：オンライン（Zoom）

題目：生成AIを活用した英文エッセイと英文スピーチの評価研究の現状と課題

(3) JACET 関東支部企画の開催

日時：2025年11月8日（土）14：30-15：50

場所：オンライン

講師：藤原康弘先生（名城大学）、城座沙蘭先生（国際基督教大学）

題目：国際英語時代における英語教員養成の再設計：授業実践と全国カリキュラム調査（Re-envisioning English Teacher Education in the Era of Global Englishes: Classroom Practice and a Curriculum Survey）

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第13号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2026年3月31日

発行：XMLデータ ※J-STAGE および関東支部ホームページに掲載

(2) 『JACET 関東支部ニューズレター』

日程：2025年9月30日（第25号）、2026年3月31日（第26号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2025年度支部総会（第1・2回合同）

日程：2025年11月8日（土）（関東支部企画と同日に実施）

場所：オンライン

目的：2024年度の支部の事業報告、会計報告及び2025年度の支部の事業計画、2026年度の支部事業計画、予算案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2025年4月12日、5月10日、6月7日、9月13日、10月11日、11月8日、12月13日、2026年1月10日、3月7日

場所：オンライン

目的：関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、審議

■2026年度支部事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

名称：2026年度関東支部大会

日程：2026年7月11日（土）を予定

場所：オンラインと対面のハイフレックス

規模：約150名

(2) 講演会等の開催

名称：JACET 関東支部講演会

日時：2026年6月13日、10月10日、12月12日の3回を予定

場所：オンライン、対面、またはハイフレックス

目的：1) 会員・非会員にとっての学びの場を提供する。

2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

規模：毎回約60人

(3) JACET 関東支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日時：2026年11月7日（土）を予定

場所：オンライン、対面、またはハイフレックス

目的：1) 支部講演会のない月に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。

2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

規模：約60人

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第14号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2027年3月31日

発行：XMLデータ ※J-STAGE および関東支部ホームページに掲載

(2) 『JACET 関東支部ニューズレター』

日程：2026年9月30日（第27号）、2027年3月31日（第28号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2026年度第1回、第2回関東支部総会
第1回

日程：2026年7月11日（土）

場所：オンラインまたはハイフレックス

目的：支部の運営について会員に報告し、翌年度の活動計画を示す。

第2回

日程：2026年11月7日（土）

場所：オンラインまたはハイフレックス

目的：支部の運営について会員に報告し、翌年度の活動計画を示す。

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：2026年4月11日、5月9日*、6月13日、
9月12日*、10月10日、11月7日、12月
12日、2027年1月9日*、2月13日*、3
月13日を予定

(*の日程については必要な場合に限って実施)

目的：支部の運営に関する審議、計画の立案

JACET 関東支部講演会報告

支部講演会委員長
青木理香（東洋大学）

2025年度下半期活動報告

2025年度下半期は、10月と12月に支部講演会がオンライン開催された。10月4日には、日本大学准教授の藤田恵里子先生をお招きして、「“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—」というタイトルでご講演いただいた。最新の研究データを用いて、自己効力感に関する効果的な尺度作成と検証の可能性を示していただき、大変有意義な講演会となった。12月13日は創価大

学教授の山内豊先生をお招きし、「生成AIを活用した英文エッセイと英文スピーチの評価研究の現状と課題」と題した講演が行われた。参加者が実際にAIを操作するワークショップ形式の講演を通し、AIの持つ指導可能性や技術的問題点を説かれ、指導にAIの導入を考えている参加者にとっても得るものが大きい講演会だった。発表詳細については、後述の支部講演会報告・概要を参照されたい。

下半期支部講演会 発表報告・概要

日時：2025年10月4日（土）16:00-17:20

講師：藤田 恵里子先生（日本大学商学部准教授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—

発表概要：自己効力感は、学習のさまざまな側面に作用する重要な心理的要因であり、日本の英語教育の分野においても研究が蓄積されてきた。本講演ではまず、日本の英語教育分野における自己効力感研究の傾向を明らかにする。どんな研究であっても適切に自己効力感が測れていることが大前提であることから、尺度作成と絡めて、自己効力感とは何か、その源は何か、学習にどう影響するのかを概観する。さらに、自己効力感の提唱者である Bandura (2006) による尺度作成のガイドラインに焦点を当て、項目の構成や設計に関する基本的な考え方を紹介する。最後に、日本の英語教育分野で最も多く採用されている尺度と“英語力”の関連に関する最新の検証結果を共有する。

報告：ご講演は、日本の英語教育における自己効力感に関する研究動向を対象としたメタ分析結果の紹介から始まり、2012年以降、国内の研究論文が継続的に発表されていることが示された。また、これらの研究では介入の影響を扱ったテーマが多く、適切な指導介入が学習者の自己効力感の

向上に寄与することが明らかになったと述べられた。続いて教育効果を正確に可視化するためには、研究や教育の目的に応じた適切な尺度の作成および選定が重要であることから、心理尺度作成においては構成概念の明確化が特に重要であること、また検証に際しては信頼性と妥当性の双方を考慮する必要があることが指摘された。さらに、Bandura の自己効力感尺度作成ガイドラインに基づき、具体例を交えながら、留意すべき点について解説がなされた。そのうえで、英語教育における自己効力感尺度について、海外と日本における違いがメタ分析結果をもとに示された。最後に、日本の英語教育分野において引用頻度が最多である自己効力感尺度に関して、講演者が大学生を対象に行った検証結果をもとに、その妥当性、信頼性が改めて示された。本講演には 90 名を超える申し込みがあり、学習者の自己効力感に対する関心の高さが伺えた。参加者にとって、理論的・実践的の両面から多くの示唆を得られる、学ぶところの多い講演となった。(青木理香・東洋大学)

日時：2025 年 12 月 13 日 (土) 16:00-17:20

講師：山内 豊先生 (創価大学教育学部教授)

場所：オンライン (Zoom)

題目：生成 AI を活用した英文エッセイと英文スピーチの評価研究の現状と課題

発表概要：生成 AI の進化はめざましく、英文の作成・要約・校正・フィードバック、他言語への変換、課題や問題の自動作成、アイデアの創出・整理、精緻で深い情報検索、音声機能を用いた対話、イラスト・写真・グラフなどの情報解析などが可能になっている。英語教育の現場では、生成 AI が学習者の英文作成を支援し、英文の添削やフィードバックを行う取り組みが広く行われている。これと比較して、生成 AI を評価に活用する実証研究はまだ多くはない。本講演では、日本人英語学習者のエッセイやスピーチを、生成 AI を

使ってどのように評価できるのか、ベテラン教員による手動評価と AI による自動評価にはどの程度の相関が見られるのか、評価精度を高めるにはどんな工夫が必要か、などについて、具体例を交えて、生成 AI や ICT に不慣れな人にも分かりやすく解説する。

報告：ご講演は、生成 AI の種類や近年の動向の紹介から始まり、続いて英語教育における生成 AI 活用の 10 の場面について説明がなされた。特にエッセイ評価に関しては、AI に対して明確な評価基準を提示することで、人間の専門家による評価との相関が高まることを示す実験結果が紹介された。一方、スピーチ評価においては、現状の生成 AI が音声認識によって生成されたテキスト情報に主として依存しているため、録音音声を直接聞きながら評価を行う教員の評価との整合性に課題があることが、技術的な問題点として指摘された。結論として、生成 AI は教員の作業の生産性や学習者のメタ認知力を向上させる有用なツールであると位置づけられた。その一方で、ハルシネーション、使用ルールの明確化、著作権、個人情報といった留意点を十分に踏まえる必要があり、結果のみならず学習プロセスも重視した複合的な評価への転換が求められると論じられた。本講演は、デモンストレーションや演習を交えた参加型形式で実施され、参加者は手元の端末を用いて実際に生成 AI を操作しながら、その具体的な活用方法を体感する機会となった。(青木理香・東洋大学)

JACET 関東支部企画報告

支部長

鈴木彩子（玉川大学）

■JACET 関東支部企画講演■

今年度の関東支部企画は、近年日本でも注目が集まってきている「国際英語論（Global Englishes）」に着目し、藤原康弘先生（名城大学・JACET 中部支部長）と城座沙蘭先生（国際基督教大学）をお招きしました。「国際英語時代における英語教員養成の再設計：授業実践と全国カリキュラム調査」という題目で行われた本講演は、理論と実態の両面からこれからの英語教育を問い直す貴重な機会となりました。

前半は藤原先生より、国際英語の概念や、なぜその視点が英語教育・英語教員養成に必要なのかについて、ご自身の授業実践例を交えてご説明いただきました。多様な英語に触れる活動が、学生が自他の英語を捉え直すきっかけとなり、英語を相対化して考えることで自立した英語使用者へと成長していく過程が具体的に示されました。

これを受けて後半では、城座先生より教員養成の現場で国際英語の視点を持った教員が育っているかを探る英語教職カリキュラム調査の中間報告をいただきました。調査結果によると、国際英語関連のトピックを扱う大学はまだ限定的であり、扱っている場合でも、多様な英語の実態を学ぶ段階にとどまっているケースが多いことが浮き彫りになりました。国際英語が孕む問題を自覚的に問い直したり、実際の授業デザインに落とし込んだりするまでには至っていないのが現状であり、今後の教員養成におけるトピックの拡充や、英語を付加言語として使用する教員の採用、そして授業実践の機会確保の重要性が示されました。

本講演の中で印象的だったのは、「どのような世界を創るために英語を教えているのか」を

我々英語教員は問い続けなければならない、ということばです。英語を単なる道具として磨き上げることに注力するのではなく、「英語という共通語を介してどう他者とかがかわるのか」ということばのコミュニケーションの本質を問うこの視点は、多くの参加者の心に響いたようです。その後の質疑応答も予定時間を超えるほど活発に行われ、これからの英語教育の在り方について、自身の教育観を見つめ直す充実した時間となりました。

各委員会からの報告

【支部講演会委員会】

支部講演会委員長 青木理香（東洋大学）

■2026 年度上半期活動計画■

2026 年度上半期は、第 1 回支部講演会を 2026 年 6 月 13 日（土）に、第 2 回は 10 月 10 日（土）、第 3 回は 12 月 12 日（土）に開催予定である。講演者等の詳細は、決定次第 JACET メーリングリスト等でお知らせする予定である。

【支部大会運営委員会】

支部大会運営委員長 山口高領（秀明大学）

【ご案内】第 18 回 JACET 関東支部大会：2 年ぶりの開催に向けて

関東支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃より支部活動への多大なるご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度（2025 年度）は JACET 国際大会が東京で開催されたため、支部大会の開催は見送られましたが、本年度はいよいよ 2 年ぶりとなる「第 18 回関東支部大会」を 7 月 11 日（土）に開催する運びとなりました。

2026 年度は、国際大会が立命館大学（大阪いばらきキャンパス）で行われます。そのため、本支

部大会は関東近郊の会員の皆様が対面で集い、直接的な議論や交流を深められる貴重な機会となります。ぜひ、多くの皆様に足をお運びいただき、対面開催ならではの熱気あふれる学びの場を共に創り上げられれば幸いです。

■大会テーマと招待講演■

今大会のテーマには、「Reconstructing ELT in a Time of Change: Dialogues between Critical Theory and Practice (変革期における英語教育の再構築：批判的理論と実践のダイアログ)」を掲げました。

教育情勢が激しく変化する現代において、英語教育の基盤を改めて問い直し、理論と実践の架け橋となる場を創出することを目指しております。この趣旨に沿い、招待ワークショップの講師として、批判的理論や質的研究の第一線でご活躍されているロバート・J・ロウ (Robert J. Lowe) 先生(お茶の水女子大学)をお迎えいたします。

当日は、「Expanding Horizons in ELT Research and Practice through Dialogue: Teacher Growth through Critical Inquiry (対話で拓く英語教育の研究と実践：批判的探究を通じた教師の成長)」と題してご登壇いただきます。ネイティブ・スピーカー主義の解体や ELF (リンガフランカとしての英語) に関する深い知見に基づき、私たちの「教師としての成長」を促す刺激的な対話の場をご提供いただく予定です。

【講師略歴】ロバート・J・ロウ (Robert J. Lowe) 先生

お茶の水女子大学言語文化教育研究センター准教授。英語教育における「批判的 (critical)」な諸問題を専門に研究。カンタベリー・クライスト・チャーチ大学にてエイドリアン・ホリデイ (Adrian Holliday) 教授の指導のもと博士号を取得後、ネイティブ・スピーカー至上主義 (native-speakerism) に関する研究を多数発表。主な著書に『Uncovering Ideology in English Language Teaching』(Springer,

2020)、共著に『Teaching English as a Lingua Franca』(Delta Publishing, 2018)、近刊に『Frame Analysis, Critical Theory, and English Language Teaching』(Routledge, 2025) など。

■発表募集 (Call for Papers) ■

本大会では、研究発表に加え、日々の教室での取り組みを共有いただく「実践報告」、さらにシンポジウムやワークショップ、SIG 発表を広く募集いたします。皆様の意欲的なご発表、そして本大会への積極的なご参加を、実行委員会一同、心よりお待ちしております。

- ハイブリッド配信について: ご承諾いただける場合は、発表内容を Zoom で同時中継いたします。遠方の会員や当日会場にお越しになれない方々とも研究成果を広く共有いただける貴重な機会となりますので、ぜひ前向きにご検討ください。

■第 18 回 JACET 関東支部大会 開催概要■

- 日程: 2026 年 7 月 11 日 (土)
- 会場: 東京都新宿区内の大学 (詳細決定次第、ML や支部 Web にて告知)
- 参加費:
 - JACET 会員: 無料 (要事前申込)
 - 非会員: 2,000 円
- 発表応募締切: 2026 年 4 月 19 日 (日) 23:59 JST (厳守)
- 発表応募方法: 支部ウェブサイトより詳細をご確認ください。

【募集カテゴリー】

- 研究発表 (Research Papers: 個人・共同)
- 実践報告 (Practice Reports: 個人・共同)
- 賛助会員発表
- シンポジウム (Symposia)
- ワークショップ (Workshops)
- SIG (特別研究部会) 発表

【お弁当と交流スペースについて】

大会当日は、ご希望の方を対象にお弁当の販売（実費負担・事前申込制）を予定しております。6月下旬頃、ML配信予定の『大会最終案内』にて申込フォームをご案内いたします。

当日は厳しい暑さが予想されます。学外へ買いに出るご負担を軽減し、涼しい室内で会員同士の交流を深めていただけるよう、昼食用のスペースもご用意いたします。ぜひ、皆様の積極的な交流の場としてご活用ください。

【支部紀要編集委員会】

支部紀要編集委員長 鈴木健太郎
(北海道教育大学)

2025年度の『JACET関東支部紀要Vol. 13』では、研究論文2本、研究ノート2本の計4本の原稿を掲載することとなりました。原稿はJ-STAGEおよび支部HPからアクセスできますので、ぜひお読みいただけますと幸いです。

委員長として今年で3年目となりますが、投稿者や査読者の方とのやり取りや、編集業務の中で毎年新たな学びを経験させていただいております。関わっていただいたみなさまにこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。特に、今年度より副委員長をお引き受けいただいた中竹真依子先生（学習院大学）には、さまざまな場面でご助力いただき、大変心強く感じております。

来年度も、投稿、査読、編集、公開までの一連の作業を迅速かつ丁寧に進めてまいります。2026年度は『JACET関東支部紀要 Vol. 14』の発行を予定しております。多くの皆さまからのご投稿をお待ちしております（2026年8月31日締切）。今後とも紀要編集委員会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局だより

支部事務局幹事
佐竹由帆（青山学院大学）

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) へ変更届を提出していただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

JACET-Kanto Newsletter 第26号

発行日：2026年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 鈴木彩子）

編集者：伊藤泰子、大野真機、長田恵理、
下山幸成、山口高領

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学 佐竹由帆 研究室